

2022年沖縄週間／沖縄の旅 Webプログラムのご案内

ぬち たから 命どう宝

～すべては神様の創られた大切な命～

あなたがたに新しい掟を与える。互いに愛し合いなさい。

わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。

ヨハネによる福音書 第13章34節

+ 主の平和がありますように

冒頭の「主の平和がありますように」はメールや便りにいつもの挨拶として付す言葉ですが、昨今の状況下では、大変切実な響きと緊張感も持ちつつ用いるようになりました。私たちは今、さらに心を込めて本気で、この挨拶を交わしたいと思います。

今年2月末、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻が始まって、テレビをはじめあらゆるメディアでその恐ろしくまた痛ましい様子の数々が伝えられるようになりました。

軍事施設だけでなく、住民たちの生活の場である家やアパート、学校や病院、そしてスーパーマーケットにも、容赦なく激しい攻撃が加えられ、あらゆる建物には無数の穴が開き、町全体が焼け焦げ、歴史的な落ち着いた雰囲気のある街々は破壊し尽くされました。

そして、何よりつらい思いにさせられたのは、その崩れ落ちた家の前で泣き叫ぶ人々の姿、幼子を抱きながら逃げ惑う母親たち、わずかな荷物を携えて瓦礫の中をよろけながら移動する高齢の人々の姿に心が張り裂けそうになりました。きっと皆さんも同様のことをお感じになったのではないのでしょうか。

ある人は沈痛な面持ちで、「こんなことが、この現代に起こるとは思わなかった」と感想を述べていました。私もそう思いました。そしてさらに私自身、怒りの気持ちを抑えきれず思わず口にした嘆きの言葉は、「私たち人間はいったい何を学んできたのか？」というものでした。

顧みると、私は長らく、この沖縄週間／沖縄の旅に関わってきました。それだけでなく、前任地の長崎でも、繰り返し平和の学びをし、被爆者が語る生の証言に触れてきました。さらにさらに、それだけにとどまらず、その他さまざまな戦争体験者が語る貴重な言葉を聞き続けてきました。それはとりもなおさず、「あの苦渋に満ち満ちた戦争をあなたがたは決して繰り返してはならない」というメッセージの数々でした。

しかし、そんな命を賭けた言葉と想いを踏みにじるような今回の蛮行に触れ、思わず嘆きの言葉を口にせずにはおれませんでした。

とくに長く取り組んできた沖縄の旅での学びから、あらためていくつかを取り上げれば、繰り返し訪問した沖縄南部の摩文仁^{まぶん}に建つ沖縄県平和祈念資料館には、「むすびの言葉」として次の

言葉が掲げられています。

「沖縄戦の実相にふれるたびに 戦争というものはこれほど残忍で これほど汚辱にまみれたものはないと思うのです この なまなましい体験の前ではいかなる人でも戦争を肯定し美化することはできないはずです

戦争をおこすのは たしかに人間です しかしそれ以上に戦争を許さない努力のできるのも私たち人間ではないでしょうか …」。

これはそのままウクライナ、またそのほかの紛争が起きているところからの叫びと重なるのではないのでしょうか。

またある時は、沖縄にも駐留する米軍海兵隊員の養成の仕方について学びました。アメリカ本土にある基地で新兵たちの訓練が繰り返し実施され、全米から多くの若者たちがやってくる。そしてその訓練は過酷を極めます。とにかく、ここで普通の若者を、人を殺せる軍人に変えていく。そのために、日夜繰り返し「教育」また「訓練」が行われています。上官の口を通して「殺せ、殺せ」との言葉を聞き続けていく。すると、人はそのようになっていきます。私たち人間は、どんな言葉を聞き続けるかで、その生き方が変えられていくという事実を目の当たりにしました。

私たちは今、この世界の現実を前にして、どうにもできない醜い人間の本質と向き合わされるようで、まさにうなだれる思いです。しかしそんな私たちだからこそ、今回のテーマ、「命^{めい}どう^{たから}宝」＝いのちこそが神さまから与えられた宝であり、「すべては神様の創られた大切な命」＝自分の命も他者の命も同様にかけがえのないもの、であり、この命を輝かせ合うように生きよ、とのヨハネ福音書の言葉に聴き続けたいと思います。

「互いに愛し合いなさい」は、決してゆるいお勧めの言葉などではなく、自己中心から逃れられない私たち人間に対する、神さまからのこの上ない厳しい命令の言葉です。このことをあらためて肝に銘じつつ、ぜひ当プログラムにご参加ください。お待ちしております。

日本聖公会 正義と平和委員会・沖縄プロジェクト委員
司祭 マルコ 柴本 孝夫（日本聖公会九州教区）

※2018年の日本聖公会第64（定期）総会にて『「沖縄週間」継続の件』が可決されました。議案では「2019年から2022年までの毎年、沖縄慰霊の日（6月23日）を含む1週間を「沖縄週間」とし、沖縄の宣教課題を具体的に共有する祈りやポスターなどを作成して全国の諸教会で用いる。」と述べられています。

日本聖公会沖縄教区と日本聖公会正義と平和委員会は、この議案に込められた願いを表すため、日本聖公会の全教区・教会に連なる兄弟姉妹が沖縄の現実に関心を寄せ、主の平和を求めてお祈りくださるよう呼びかけます。また今年もこの週間にあわせて沖縄の歴史と現在を学び、ともに祈るひとときを、多くの方々と一緒にできればと思います。

過日お送りしたポスターとあわせてご案内くださり、どうぞご参加ください。

主催 日本聖公会沖縄教区
日本聖公会正義と平和委員会

沖縄週間の祈り

歴史と生命の主である神よ、わたしたちを平和の器にしてください。

嘆きと苦しみのただ中にあなたの光を、

敵意と憎しみのただ中にあなたの愛と赦しをお与えください。

わたしたちの出会いを通して悲しみの中に慰めを、痛みの中にいやしを、
疑いの中にあなたへの信仰を、主よ、豊かに注ぎ込んでください。

この沖縄週間を通してわたしたちを新たにし、

あなたの示される解放と平和への道を歩む者としてください。

わたしたちの主イエス・キリストのいつくしみによって、

このお祈りをお献げいたします。 アーメン

2022年沖縄週間／沖縄の旅 Webプログラム

プログラム詳細・参加方法

日時： 第1夜 6月22日（水）19：00～

第2夜 23日（木）19：00～

それぞれ約90分間。どちらか一方でも参加できます。

内容： 第1夜

「沖縄に聴く」と題し、沖縄の「本土復帰」についての証言を伺い、グループに分かれて感想等を共有します。

1. 開会の祈り
2. あいさつ
3. アイスブレイク
4. 証言（「本土復帰」について2名の方より）
5. グループシェアリング
6. 就寝前の祈り（聖歌・戦争犠牲者のための祈りなど）

第2夜

「分かち合い・歩み出す」と題し、沖縄からの声、そして主イエスさまのみ言葉に思いを深め、平和のために歩み出すことを目指します。

1. 開会の祈り
2. 1日目のふりかえり～グループ別聖書の分かち合い～全体発表
3. 全体の締めくくり
4. 閉会の祈り

Web会議システム「Zoom」を用いた相互会話の参加（人数限定）と、その様子をYouTube配信で視聴いただく参加の2つの方法があります。

2夜ともに、プログラム終了後は自由に会話ができる場を設けます（Zoom参加の方のみ）。

参加費： 無料（参加に必要な通信費は各自でご負担ください）

定員： Zoom参加40名

申込方法： 下記アドレスのフォームからお申し込みください。

<https://forms.gle/fw5rrjZZpwSs8ia86>

（右のQRコードからも接続できます）

申込締切後、メールにて参加方法等を連絡いたします。

※インターネット環境のない方は…

- ・ 事前に参加者一同へのメッセージ等をお預かりすることができます。
- ・ ご希望の方にはプログラムの様子を録画した動画をDVDにしてお送りします。返送用の140円切手を同封のうえ、郵便にて下記までお申し込みください。

・ 申込締切： 6月16日（木）



○お問い合わせ、参加者へのメッセージ等は下記までご連絡下さい。

司祭 小林祐二（日本聖公会 正義と平和委員会 沖縄プロジェクト担当）

〒407-0301 山梨県北杜市高根町清里3545 清里聖アンデレ教会

Tel：0551-48-2113 Fax：0551-48-3123

e-mail：okinawa-project@nsskk.org（受信専用。返信は別アドレスより）

以上